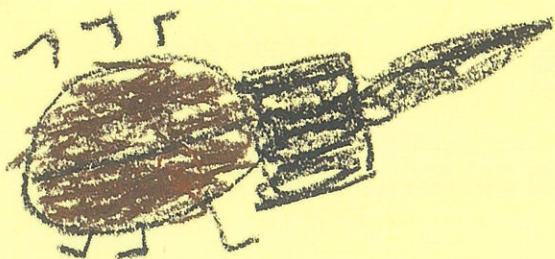




国立大学附属幼稚園からの提案 3

# 幼児の育ちの現状と課題



平成20年 3月

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会



## 発刊にあたって

平成18年12月に改訂された教育基本法では「幼児期の教育」の項目が新設され、その重要性が明確に規定されました。また平成19年6月に改訂された学校教育法では、幼稚園が学校教育の最初に位置づけられ、義務教育およびその後の教育の基盤であることが一層明確になりました。このことを受けて、平成20年1月中央教育審議会は「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」を答申し、幼稚園教育要領改訂案を公表しましたが、その「審議のまとめ」の中で、近年子どもの育ちが変化しており、基本的な生活習慣の欠如を初めとしたいくつかの現代的な課題を指摘しています。この指摘にもありますように、激しく変動する社会において絶えず変化する子どもたちの現状と課題をきちんととらえた上で幼児の健やかな成長を促していくという重要な役割を幼稚園教育が負っているということが出来ます。

国立大学附属幼稚園は、研究機関である大学と共同して幼児教育に関わる今日的課題について研究を進めていくという特徴をもっております。そしてこれまでに、それらの研究成果をリーフレットとして二度発信してまいりました。本年度は、「幼児の育ちの現状と課題」というテーマでこのリーフレットを全国に発信することといたしました。学校教育の始まりとしての幼児教育を更に充実し発展させるために、これらの研究成果をご活用いただければ幸いです。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会  
会長 福永 茂



## 目 次



### —国立大学附属幼稚園の取り組み—

「幼児の育ちの現状と課題」を探る ..... 4

### —研究の概要—

自尊心の育ちを考える —かけがえのない自分を大切に思う心を育む—  
奈良教育大学附属幼稚園 ..... 5

からだで感じる環境の構成を考える —スポーツテスト等のデータ結果より—  
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 ..... 6

他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成  
—子どもの育ちの現状をもとにして— 鹿児島大学教育学部附属幼稚園 ..... 7

遊びを通して、「科学的な感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせる保育をめざして  
新潟大学教育人間科学部附属幼稚園 ..... 8

### —コラム・今後に向けて—

#### 〈コラム〉

「幼児の育ちの現状を受け止めて」 ..... 9  
文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官 篠原孝子先生

#### 〈今後に向けて〉

—国立大学附属幼稚園(49園)平成20年度研究テーマ一覧— ..... 10～11



## 「幼児の育ちの現状と課題」を探る

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で重要なものです。

また、幼稚園教育は、学校教育のはじまりとして生きる力の基礎を育成するという重要な役割を担っています。

しかし、近年の子どもの育ちは、中央教育審議会答申(平成20年1月)でも指摘されているように、基本的な生活習慣の欠如、食生活の乱れ、自制心や規範意識の希薄化、運動能力の低下、コミュニケーション能力の不足、小学校生活にうまく適応できないなどの課題が見られます。

これらの課題解決のために国立大学附属幼稚園では、「幼児の育ちの現状と課題」をテーマに、大学や専門機関と連携しながら調査研究や共同研究を行い、課題解決の方法を模索していきたいと考えております。

### — 掲載事例の概要 —

#### 自尊心の育ちを考える

かけがえのない自分を大切に思う心を育む

- 自尊心が育まれるために必要な体験ができると思われる環境の設定と保育実践
- 細かな観察、考察、カンファレンスによる、自尊心の育ちや、保育者の援助の在り方の検証
- 保護者の意識調査

#### からだで感じる 環境の構成を考える

スポーツテスト等のデータ結果より

- 幼児の身体機能を高めたり運動機能を磨いたりする環境を考える(直接体験の重視)
  - ・園庭空間の工夫(ロープを取り入れた環境)
  - ・裸足保育と土踏まずの形成

#### 他とよりよくかかわることを 通して自分らしさを発揮できる 子どもの育成

子どもの育ちの現状をもとにして

- 保護者へのアンケートによる子どもの育ちの捉え(自分の気持ちをうまく言葉に表せない子ども)
- 幼児期に大切にしたい他とのかかわり
- 自分らしさを発揮できる子どもを育てる保育者の援助の在り方

#### 遊びを通して、「科学的な感性」 「科学的なものの見方・考え方」を 働かせる保育をめざして

- 幼・小・中 12年間を見通した連携教育課程研究(接続期の設定)
- 自然との直接的・具体的体験と、幼児期にふさわしい「知的発達」
- 保護者アンケートと評価



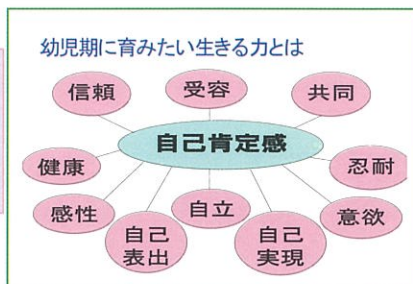
# 自尊感の育ちを考える

—かけがえのない自分を大切に思う心を育む—

奈良教育大学附属幼稚園

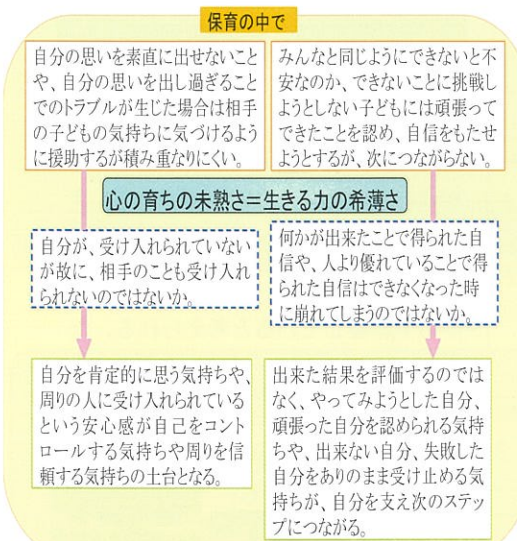
自尊感とはかけがえのない自分を大切に思う心。自分の弱いところやいやなところも含めて、自分をまるごと肯定する気持ちであり、自分の存在そのものを価値あるものと認める心。そしてその心は人のことも同じように大切に思う気持ちにつながる。

自己肯定感について大学の専門家から研修を受けた。そして私たちが幼児期に育みたい生きる力のもとになるものを自尊感と定義した。



## ▼今、なぜ自尊感が必要なのか

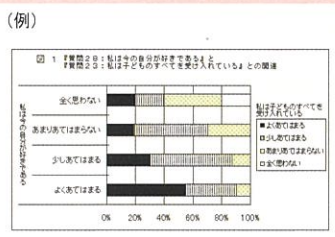
## ▼自尊感の育ちをとらえるために



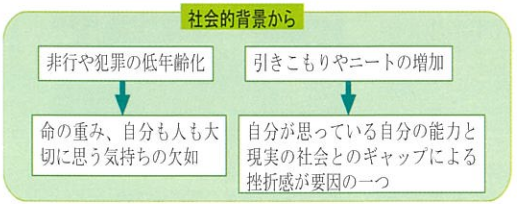
**保育カンファレンスを行う**  
 保育を振り返り、自尊感が芽生えると思われる場面に焦点をあて、関わる事例を取り上げる。担任、副担任、養護教諭、副園長、大学の専門家などが参加して、多角的な見方・考え方を出し合い意見交換を行う。自尊感の育ちにつながると思えた事例につき「事例を取り上げた理由」「カンファレンスの内容」「カンファレンスで得られたこと」の観点でまとめ、これらを集積し自尊感を育む保育の在り方を導き出す。

**保育の実践への新しい取り組み**  
 自尊感が育まれるために必要な体験ができると思われる環境を設定し、保育実践を行う。細かく観察し、考察、カンファレンスによって自尊感の育ちや、保育者の援助の在り方を検証する。

**保護者の意識調査**  
 子育てに関することや保護者自身の自尊感についてのアンケートを実施し、保護者の自尊感と子育て観・子ども観の関連性について探る。



(考察) 自分を肯定的に受け止めている母親ほど育児に前向きで、子どものこともすべて受け止められる人が多いことが分かった。子どもをしっかりと受容してもらえるように、幼稚園は母親の自尊感を支える必要がある。



**個人の変容を追う**  
 個人の子どもの変容を自尊感の窓口からとらえ、自尊感と子どもの育ちとの関連性や保育者の援助などの観点で考察する。

## ▼自尊感を育むために幼稚園教育はどうあるべきか

●めざす保育のあり方●	●めざす保育者のあり方●	●めざす保護者とのかかわり●
<p><b>☆自分の居場所を見つけられる場</b>                      自分の思いをしっかりと出していくため、ゆったりとした時間と空間を保障し、自発的に動き出し、自分で考えたり、繰り返したり、試したりしながら自己実現させたい。</p> <p><b>☆心の葛藤を経験できる場</b>                      トラブル、もめごとなど心の葛藤を経験する中で自分の気持ちと向き合い、人の存在を意識しながら感情の折り合いをつけ、人と共に生きていくことを学ばせたい。</p> <p><b>☆負の経験ができる場</b>                      失敗、つまづき等の挫折感を乗り越え、自分で乗り越え頑張ったという自信や満足感を糧にして、次に立ち向かう強さを身につけていけるようにしたい。</p> <p><b>☆自己実現できる場</b>                      自分で決めて動いたことには、自分でやったという実感と満足感を伴う。自分に自信をもって生活できるよう、何度も自己決定を繰り返させたい。</p>	<p><b>☆安心感を与えられる保育者</b>                      自分のすることを肯定的に見てもらえるという安心感があると、自分に自信をもち、自分を大事に思い、ありのままを躊躇せず素直に出せるようになる。子どもをまるごと受けとめ、子どもに対する愛情を伝えていきたい。</p> <p><b>☆許容範囲の大きな保育者</b>                      子どもの言動に対し、失敗しても、間違ってもいいよという温かい雰囲気をかもし出しながら、物事に関して柔軟な幅広い見方を伝えていきたい。</p> <p><b>☆気持ちを大事にする保育者</b>                      指示を与える言葉より、気持ちを伝える言葉こそ、子どもの心に響き子どもの心を揺り動かす。子どもの思いと保育者の願いのバランスをとりながら、子どもの成長を支えていきたい。</p> <p><b>☆待つことのできる保育者</b>                      子どもを信じ、子どもの力を信じ、自分で動き出すまで待つという余裕が保育者には必要。自分で頑張りを、乗り越えた時に認め、共に喜び合いたい。</p>	<p><b>☆保護者の自尊感を尊重する</b>                      それぞれの親の良いところ、子育てで頑張っているところなどを、具体的に話し認めることが、親の自尊感につながり、それが子どもの自尊感を育てることにつながる。</p> <p><b>☆自尊感について保護者とともに考える</b>                      保護者会、懇談会、“保育室降園”などの機会を捉え、自尊感をテーマにした話をしたり、話し合いをもったりして、子育てに関する理解を深める</p> <p><b>☆保護者が子どもを肯定的に見ることができるよう働きかけをする</b>                      園での子どもの良いところ、大きくなったと思うところ、今育とうとしているところなど、一人一人の素晴らしいところを意識して伝え、子どもの成長を共に認め合うようにする。</p>

問い合わせ先: 奈良教育大学附属幼稚園 〒630-8301 奈良市高畑町354番地 TEL0742-27-9286 FAX0742-27-9287



# からだで感じる環境の構成を考える

## —スポーツテスト等のデータ結果より—

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園

### 1. はじめに

「裸足で・外で・元気で」を合い言葉に、からだで感じる環境の構成を考えてきた。「からだで感じる環境」とは、直接体験したことを、からだで感じて、その結果、皮膚感覚を磨いたり、運動機能の発達を促したりすることにつながる環境と捉えている。そのために、まず、手足の動きがいつも感じられるように、一年中半袖半ズボンの運動着の生活を取り入れ、裸足保育を推進してきた。そして教師自身も率先して裸足になり、砂や水に触れて楽しむ環境づくりを心がけてきた。また、園庭空間が幼児のからだで感じる学びに繋がるよう、テラスや藤棚、ケヤキの木にロープを張ったり吊り下げたりする環境を積極的に取り入れてきた。それらの環境が、幼児の身体機能を高めたり、運動能力を磨いたりすることにつながっていたのかどうかを、スポーツテストの結果と照らし合わせ検証することにした。



藤棚のロープわたり ケヤキの木のロープウェイ

### 2. スポーツテストのデータとからだで感じる環境の構成

#### ① 5歳児スポーツテストの結果

スポーツテストのデータ		からだで感じる環境の構成
種目	2002年 → 2006年	
25m走	男児 6.3 → 5.9 (秒) 女児 6.4 → 6.2 (秒)	・一年中、裸足の生活 ・一年中、半袖半ズボンの生活
立ち幅跳び	男児 114.6→119.3 (cm) 女児 103.6→103.9 (cm)	・土や水に触れての外での自然体験 ・リレー、鬼ごっこなどの運動遊び
ボール投げ	男児 6.6 → 9.0 (m) 女児 4.6 → 5.6 (m)	・運動会における5歳児全員リレー
握力	男児 7.2 → 8.6 (kg) 女児 6.9 → 6.6 (kg)	・ロープを取り入れた遊び
閉眼片足立ち	男児 5.1 → 7.2 (秒) 女児 14.3 → 7.6 (秒)	・つどいや避難訓練等での立位姿勢の保持
体支持持続力	男児 52.3 → 42.5 (秒) 女児 42.3 → 34.7 (秒)	・玄関での靴の履き替え

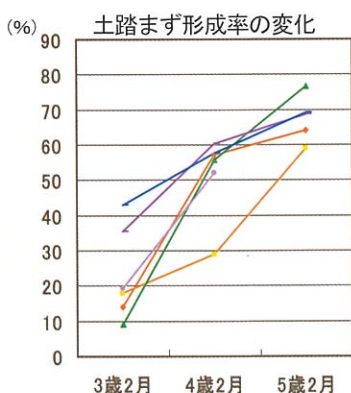
#### ② ロープを取り入れた環境の成果

握力が男児で2002年7.8kgだった記録が2006年8.6kgに伸びていた。また、ボール投げでも、記録の伸びが確認できた。これらの記録の伸びは、ロープを取り入れた環境によるところが少なからず影響していると考えられる。ただ、いずれの環境もぶら下がる腕の力や握る力だけでなく、体を支えるバランスやつかまる時や離れる時の身のこなしなど、全身の感覚を磨くことができる環境であると考えている。



ロープを吊り下げた環境

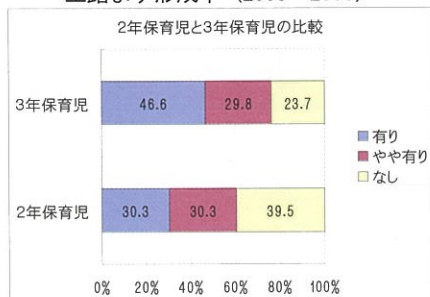
#### ③ 裸足の成果



2001年入園児の4歳児2月の形成率が他の年に比べ低い。この学年は、裸足になることに抵抗を示し、靴下とズックを履いたまま外で遊ぶ幼児が多かったことが影響していると考えられる。年によって3歳児2月の形成率に差があるのも、3歳児の間なかなか裸足になれない幼児がいることも一つの要因と思われる。また、個人差もあるので一概には言えないが、家庭での生活振りも少なからず影響していると考えられる。

裸足保育を始めてから「立位保持が長くできるようになった」「走る時に転ばなくなった」などの成果が見られている。実際に25m走の記録も2002年男児で6.3秒が、2006年には5.9秒に、女児も6.4秒から6.2秒に伸びている。立ち幅跳びについても、記録の伸びが確認できた。

#### 4歳児7月時点の2年保育児と3年保育児の土踏まず形成率 (2003~2006)



また、本園では、2年保育児と3年保育児がいるが、例年、4歳7月採取時に2年保育児よりも3年保育児に多く土踏まずができている傾向が見られている。単年度では人数が少ないので、2003年度から2006年度までの4年分のデータを総計して比較してみた。左のグラフがその結果になるが、4歳児7月の時点では、3年保育児の方が土踏まずの形成率が高いことがわかった。個々の育ちや経験内容による個人差もあるので、一概には言えぬが、3歳児の裸足保育が土踏まず形成に大いに影響していることが考えられる。

問い合わせ先 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園  
TEL 076-226-2171 FAX 076-226-2172  
E-mail kinder@center.ed.kanazawa-u.ac.jp



# 他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成

## —子どもの育ちの現状をもとにして—

鹿児島大学教育学部附属幼稚園

近年、都市化や情報化が進み私たちの生活は便利になってきたが、自然環境の減少や少子化、人間関係の希薄化などが社会問題として挙げられるようになった。このような時代背景の中で育つ子どもたちは、自然体験や感動体験など様々な体験の機会が失われ、直接的なかかわりが少なくなり、自分の感じていることをうまく言葉に表すことができない子どもの姿も見られる。

そこで、本園では、子どもたちが生活の中でかかわっている環境を『他』とし、『他』を「人」「もの」「自然」の3分野に分け、『他』との直接的なかかわりを通して自分らしさを発揮する子どもの育成についての研究を進めている。「人」「もの」「自然」に注目して保護者向けにアンケートを行ったところ、次のような子どもの育ちの現状が見えてきた。私たちは、子どもの育ちの現状を踏まえ、時代の要請や保護者の願い、保育者の思いを総合的に捉え、幼稚園としてどうあるべきか考えていかなければならない。

### <子どもの育ちの現状>

- ほとんどが核家族だが、祖父母と触れ合う機会は多い。(89%がよく触れ合っていると回答)
- 地域とのかかわりが薄く、地域の活動にあまり参加したことがない。(63%)
- 近所に一緒に遊ぶ友だちはいるが、同世代の友だちは少ない。(26%は近所に友だちがいないと回答)
- 室内で過ごすことが多く、体を動かして遊ぶ機会が少ない。
- 身近な自然が少ない。(家庭菜園、生き物の飼育等に取り組む家庭は多い)
- 自分の気持ちをうまく言葉に表せない子どもがいる。

時代の要請

保護者の願い

保育者の思い

### 幼稚園として・・・

- 幼稚園周辺の地域とのかかわりを大切にしよう。  
(地域に支えられて生活していることを子どもたちが感じられるように)
- クラスの友だちや異年齢の友だちとのかかわりを大切にしよう。
- 自然体験を大切にしよう。(子どもたちが自然と直接かかわれる環境づくり)
- 幼稚園での生活の様子を保護者に発信しよう。

- 大学と連携し、専門的な視野をもって研究を進めよう。

※ 附属学校の特色を生かし、大学と連携しながら研究を進めている。  
(幼児教育、心理学の専門家を中心に研究協力を依頼している。)

- 事前研究会  
(年に3回程度実施し、研究の方向性を確認したり、教育の動向を教示いただいたりする。)
- 研究保育を通しての実践研究及び理論研究
- 保育参観
- 公開研究会における指導助言 等

本研究では、「自分らしさ」は、生まれながらに誰もがもっているものであり、『他』とのよりよいかかわりによって広がっていくものであると捉えている。

「自分の気持ちをうまく言葉に表せない子どもがいる」という子どもの育ちの現状の事例で、入園したばかりの年少児が物の貸し借りをうまくできないということがあった。これまで同世代の友だちと遊ぶことが少なく、気持ちを言葉に表す機会がなかったためであろう。そんな時、保育者から「貸して」「いいよ」などの友だちとかかわるために必要な言葉を聞き、相手を受け入れることができるようになる。

保育者は、子どもの育ちの現状(実態)を把握し、様々な言葉で自分の気持ちを表現し、自分らしさを発揮できる子どもたちを育てること、そして、『他』とのかかわりを多くもつことができるような保育を構想する力が求められていると考える。



貸して

いいよ

### <今後の課題として>

子どもたちの育ちが変化してきていると言われる中で、私たちは幼児期に大切な遊びを通して、直接かかわることの必要性を保護者へ発信すると同時に、家庭からの情報も共有していくことが必要である。今後も、子どもたちが様々なかかわりを通して自分らしさを発揮する姿を、家庭や地域、大学とも連携して追究していきたい。

問い合わせ先 鹿児島大学教育学部附属幼稚園 〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目20-15

Tel 099-285-7990 Fax 099-285-7995 URL <http://www-kg.edu.kagoshima-u.ac.jp>



# 遊びを通して、「科学的な感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせる保育をめざして

新潟大学教育人間科学部附属幼稚園

## ◇附属の利点を生かした幼・小・中の連携

当幼稚園がある附属長岡校園は、幼・小・中が同一敷地内にあり園舎・校舎がつながっている。この良さを生かし、幼・小・中 12 年間を見通した連携教育課程研究を行い「個性的で豊かな人間性をもつ子ども」の育成を目指した。そこで、まずは、系統性の見えやすい科学等を連携の柱に置き、学びの連続を目指した。

## ◇幼稚園で求める子どもの姿

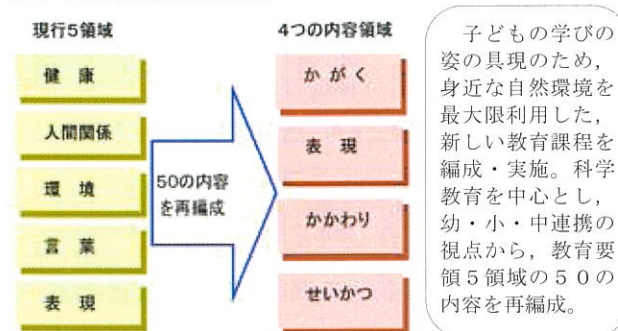
求める子どもの姿	身の周りにある自然事象の性質や仕組みに気づき、自分の遊びを楽しんでもらえる価値あるものとしてとらえ直す子ども
科学的な感性	身の周りの自然事象の性質や仕組みに目を向ける力
科学的なものの見方・考え方	身の周りの事象にかかわる中で、考えたり試したりしながら工夫していく力

自然の中にたつぷりと浸って遊ぶ経験が少なくなりつつある現在、幼児期の子どもにとって身の周りにある環境、特に自然環境に触れて生活することの意味は大きい。自然から様々な刺激を受け、敏感に反応し、あるいは感覚を働かせ、面白さや不思議さに気付く直接的・具体的体験は、幼児期にふさわしい「知的発達」につながると考える。

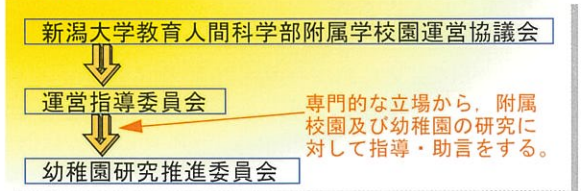
ここでは、幼児期の子どもの「知的発達」を、文字や数量などの知識・理解の獲得ではなく、左に示した資質・能力ととらえたい。

子どもの願いを教師が直接かなえてあげることは簡単である。しかし、それでは幼児期にふさわしい「知的発達」を育むことはできない。子どもが身の周りの自然と主体的に繰り返しかかわる中で、ものの性質や仕組みに目を向け、自分の遊びを楽しくしようと試行錯誤したり、友達と情報を交換し考えを深めたりしていけるようにすることが教師の役割である。また、子どもの自然とのかかわりを充実させ、「科学的な感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせるためには、教師の意図的・計画的な環境の構成と援助が大切である。

## ◇4つの内容領域の設定



## ◇大学との連携



## ◇教育課程の改善

《子どもに体験させたい活動を明確にした指導計画》(例) 3歳児9月

『秋になったよ』(活動のまとめ名)

○先生や友達と一緒に虫とりをしたり種取りをしたり、身近な草花を使って遊んだりしながら、自然への親しみの気持ちをもつ。(ねらい)

<かがく>・いろいろな虫を探したりとったりして観察する。  
 ・草花の種取りをする。  
 ・虫や草花に興味をもち、先生と一緒に名前や飼い方、遊び方などについて、絵本や図鑑を見ようとする。

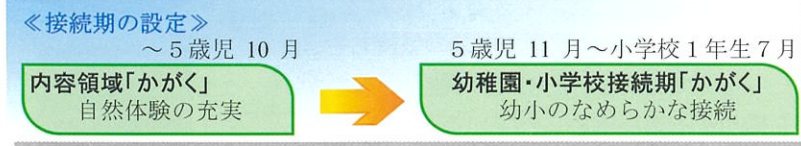
<表現>・先生や友達に見たことや感じたことを自分なりの言葉で話す。(各内容領域に示されている内容)  
 ・お家の人や先生、友達と一緒に、なし・ぶどう狩りをする。  
 ・秋の歌を歌ったり、虫になりきって動いたりする。

<せいかつ>・公園で友達や先生と一緒に遊ぶ。

活動例：虫探し、虫とり、虫を飼う、草花の種取り、草花の色水ジュース作り、秋の歌を歌う、虫ごっこ

関連行事：なし・ぶどう狩り遠足 (主な活動例と関連する行事)

\*朱筆で修正を加え、次年度に生かす



幼稚園では、友達とのかかわりをより重視する。また、小学校では、幼稚園での遊びが学びに生かせるよう、生活科等で自然にかかわる内容を1学期に重点的に配置する。

## ◇保護者アンケートより

- (1) 家庭で科学にかかわることや変化  
 「変化あり」65%  
 ・動植物への興味が多くなった。 ・図鑑を広げる時間が増えた。 等  
 ・疑問に思ったことを自ら調べるようになった。
- (2) 園の研究の取組  
 「肯定的評価」70%  
 ・理数離れが進んでいる。科学にかかわっていくことは素晴らしい。 等  
 ・科学に興味をもち、探究心を深めていくのでよい。

【問い合わせ先】  
 新潟大学教育人間科学部附属幼稚園  
 〒940-8530 新潟県長岡市学校町 1-1-1  
 TEL 0258-32-4192 FAX 0258-37-3705  
 E-mail kinder@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp



## コラム

# 「幼児の育ちの現状を受け止めて・・・」

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 教科調査官  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

篠原 孝子 先生

毎年、新しい幼児たちとの出会いがあり、幼児と教師とで創り出す新しい幼稚園生活が始まる。幼児期の教育は、家庭と地域と幼稚園で行われる。これらの三者が連携し、連動して一人一人の育ちを促していくことが大切である。従来、家庭は、愛情としつけを通して幼児の成長の最も基礎となる心の基盤を形成する場であり、幼稚園は、これらを基盤にしながら家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教師に支えられながら、幼児期なりの世界の豊かさに出会う場であり、さらに、地域は様々な人々との交流の機会を通して豊かな体験が得られる場であった。

しかし、近年の急速な社会の変化により、家庭や地域の教育力が急激に低下して「幼児の育ちが何かおかしい」「幼児の育ちが二極化している」という状況が生じ、大きな課題となってきている。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培われる重要な時期であるという認識が一般に広まりつつある今だからこそ、幼児の育ちの現状を敏感に把握し、その背景を分析して、家庭や地域に広く発信し、次代を担う幼児が健やかに育っていくために共に支えあう協力体制をしっかりと構築することが急がれる。これらのことを組織的に発信するためには、大学学部と連携しうる附属幼稚園にその可能性を見出すことが期待される。

幼稚園の役割について次の2つの視点から考えたい。一つは、幼児の調和のとれた発達を促すために、幼児期の生活を豊かにし、人間関係を深めていく視点である。つまり、発達の様々な側面に関連する多様な体験をすることが重要であり、興味や関心に応じた環境を整え、幼児が主体的な活動を展開して、実感をもって体験していけるように援助すること。もう一つは、家庭や地域における幼児期の教育を支援する視点である。在園児の保護者及び地域の未就園児の保護者も視野に入れて、遊びの重要性や幼児の内面の理解などについて、持ち前の専門性を発揮すること。いずれも、幼児の育ちの現状を受け止めて、実践を深めてほしい。

## 今後に向けて

- ・ 幼児の育ちの実態を把握する調査研究を行い、幼稚園教育の改善の方向を明らかにして行きます。
- ・ 豊かな研究組織をもつ大学と連携し、その専門性を生かした調査研究や共同研究に取り組み、広く社会に発信して行きます。





# 平成20年度 国立大学附属幼稚園研究一覧

20. 3: 現在

	園名	研究テーマ	公開研究会等の期日(予定)
1	北海道教育大学 附属旭川幼稚園	特別なニーズを必要とする幼児の特性に応じた 教育的支援を考える ～共に育ちあう幼児を求めて～	20. 10. 18(土)
2	北海道教育大学 附属函館幼稚園	自らかかわり遊びを豊かにする保育の充実 ～異年令交流・幼小連携を通して～	20. 10. 18(土) 21. 2. 21(土)
3	弘前大学教育学部 附属幼稚園	ともに育ち合う ～遊びを深める援助～	20. 9. 6(土)
4	岩手大学教育学部 附属幼稚園	学びの基礎を培う遊びの充実をめざして ～しなやかな心と体を育む遊びの環境を考える	20. 10. 31(金)
5	宮城教育大学 附属幼稚園	かかわり合う力をはぐくむ ～身近な自然とのかかわりをとおして～	20. 10. 3(金)
6	秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	「子どもの遊びを見つめて」	20. 7月上旬
7	山形大学 附属幼稚園	豊かな遊びを育む ～見とりと援助を再考する～	20. 5. 28(水)
8	福島大学 附属幼稚園	接続期の教育を考える	20. 6. 11(水) 20. 6. 12(木) 20. 11. 14(金) 20. 11. 15(土)
9	茨城大学教育学部 附属幼稚園	子どもの育ちを捉えるために	20. 6. 12(木) 20. 10. 1(水) 20. 11. 18(火)
10	宇都宮大学教育学部 附属幼稚園	「気になる子」と保育 ～多様性に応じる教育の在り方～	20. 6. 20(金)
11	群馬大学教育学部 附属幼稚園	幼児の発達を支える保育の在り方を探る ～幼児の心をとらえる園庭の環境2～	20. 5. 29(木) 20. 11. 29(土)
12	埼玉大学教育学部 附属幼稚園	保育内容の再考 ～領域「健康」のねらいを視点として～	20. 6. 25(水)
13	千葉大学教育学部 附属幼稚園	多様な体験を生み出す保育環境をめざして	20. 11. 11(火)
14	東京学芸大学附属 幼稚園(小金井園舎)	心が動く、体が動く ～表現する喜びを味わう～	20. 11. 1(土)
	東京学芸大学附属 幼稚園(竹早園舎)	主体性を育む幼・小・中連携の教育 ～幼・小・中の接続期に着目して～	21. 2. 14(土)
15	お茶の水女子大学 附属幼稚園	環境に対する豊かな感受性を育む	20. 5. 23(金) 20. 9. 26(金) 21. 2. 6(金)
16	山梨大学教育人間科学部 附属幼稚園	自然がはぐくむ子どもの豊かな育ち ～自らかかわり、心を動かす環境とは～	20. 6. 21(土)
17	新潟大学教育人間科学部 附属幼稚園	創造的な知性を培う第2次研究第2年次 ～遊びを通して、知的好奇心・探究心を育むⅡ～	20. 10. 17(金)
18	富山大学人間発達科学部 附属幼稚園	子どもの関係性を育てる教育課程の展開	20. 6. 25(水)
19	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属幼稚園	学びをつなぐカリキュラムの開発 ～一人一人の自己表現をみつめて～	20. 6. 14(土) 20. 11. 20(木)
20	福井大学教育地域科学部 附属幼稚園	「伝え合う ひびき合う」	20. 6. 14(土)
21	信州大学教育学部 附属幼稚園	「遊び続ける子ども」 ～一人一人の“そのらしさ”に寄り添いながら～	20. 10. 25(土)
22	上越教育大学 附属幼稚園	幼児の生活と仲間関係 ～接続期の育ちをみつめる～	20. 10. 15(水)
23	静岡大学教育学部 附属幼稚園	共に育つ ～豊かな体験を通してつながる心～	20. 11. 21(金)
24	愛知教育大学 附属幼稚園	人とかかわる力を育てる保育を考える	20. 11. 14(金)
25	三重大学教育学部 附属幼稚園	教育課程の実践と定着	21. 1. 31(土)



	園名	研究テーマ	公開研究会等の期日(予定)
26	滋賀大学教育学部 附属幼稚園	もの・人・自分に向き合いながら、自分と相手との 関係性を創り出す子どもをめざして ～教育的価値を高める環境～	20.12月初旬予定
27	京都教育大学 附属幼稚園	幼稚園独自のテーマ「遊びの深まりと仲間づくり」 幼・小・中連携のテーマ 「学びの生きる場づくり (3歳から15歳までの子どもが学び合う姿を求めて)」	桃山地区三校園研究会 20.11月予定 園 学期に一度の予定
28	大阪教育大学 附属幼稚園	生活の中の学びと教師の援助について考える(第2年次) ～心わきたち、学びを育む生活をつくる～	20.11.8(土)
29	兵庫教育大学 附属幼稚園	保育における「つながり」を考える ～思いっきり遊んで表現する子ども～	20.5.28(水) 20.11.26(水) 21.1.28(水)
30	神戸大学発達科学部 附属幼稚園	子どもにとっての遊びの意味を問い直す	20.6.21(土) 20.7.31(木) 20.11.22(土) 21.2.14(土)
31	奈良教育大学 附属幼稚園	ひとりひとりが輝く保育をめざして ～特別な配慮を必要とする子どもへの教育的支援を考える～	20.5.31(土)
32	奈良女子大学 附属幼稚園	事物認識とその表現形式の徹底化を通して独創的で 「ねばり強い」思考能力を育成する ～幼・小・中等15年間にわたる教育課程の研究開発～	20.11月予定
33	鳥取大学 附属幼稚園	運動的な要素を含む遊びの中の学びとそれを誘発する環境 を探る	20.7.4(金)
34	島根大学教育学部 附属幼稚園	豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究	未定
35	岡山大学教育学部 附属幼稚園	ひろがる・つながる・ふかまる 豊かな体験の追究	20.11.19(水)
36	広島大学 附属幼稚園	幼児の自然体験について考える ～“森の幼稚園のカリキュラム”実践と評価～	20.11.13(木)
37	広島大学 附属三原幼稚園	「幼小中一貫の教育力を生かした社会のグローバル化・高度情報化・超少子化の進展に対する国際的コミュニケーション能力の育成を中心とした21世紀型学校カリキュラムの研究開発」	19.12.7(金) 19.12.8(土)
39	山口大学教育学部 附属幼稚園	子どもの育ちを促す保育環境の充実 ～体を動かすことを楽しむ生活～	20.11.6(木)
	鳴門教育大学 附属幼稚園	保育の質を問う	20.11.21(金)
40	香川大学教育学部 附属幼稚園(坂出園舎)	子どもの育ちを支える ～人とのかかわりを通して～	20.10.31(金)
	香川大学教育学部 附属幼稚園(高松園舎)	生活や遊びの中の学び	21.2.6(金)
41	愛媛大学教育学部 附属幼稚園	〈人間力〉を育てる幼・小・中連携教育の研究 ～カリキュラムの開発と指導の工夫を中心に～	21.2.13(金)
42	高知大学教育学部 附属幼稚園	よく考えて行動する子どもを育む園生活のあり方(4年次) ～自分なりに思いをめぐらせて～	21.2月
43	福岡教育大学 附属幼稚園	小学校生活を見通した幼児期の遊びや生活のあり方を求めて ～表現リテラシーの育成に関する実践研究	21.2.10(火)
44	佐賀大学文化教育学部 附属幼稚園	幼児期の学びを拓く保育の創造 ～遊びや友達の中で育む かかわる力と自己肯定感～	21.2.8(日)
45	長崎大学教育学部 附属幼稚園	心も身体も元気な子どもをはぐくむ	20.10.30(木)
46	熊本大学教育学部 附属幼稚園	幼児の遊び つなぎ・広げ・深まる ～他者とのしなやかなかかわりを通して～	20.5.30(金) 20.10.31(金) 21.1.30(金)
47	大分大学教育福祉科学部 附属幼稚園	幼児期にふさわしい知的発達を支えるものは ～子どもの学びを見取り、生かす援助～	21.1.31(土)
48	宮崎大学教育文化学部 附属幼稚園	かかわる力を育てる援助の在り方 ～運動遊びの視点から(3年次)～	21.1.30(金)
49	鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる 子どもの育成 ～自然とのかかわりを通して～	21.2月頃





— 発行 —

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

— 事務局 —

群馬大学教育学部附属幼稚園

〒371-0032 前橋市若宮町 2-5-3 tel. 027-231-3170 fax. 027-231-3163  
e-mail. kinder@fuzoku-kg. menet. ed. jp